

# 行政視察報告書

令和7年7月25日

呉市議会議長 殿

呉市議会議員

山上 文恵  
久保 東  
院 玄 裕

次のとおり行政視察したので報告します。

## 1. 視察期日

令和7年6月30日（月）～7月3日（木）

## 2. 調査項目

岐阜県岐阜市 子ども・若者総合支援センター「エールぎふ」の取組について

---

滋賀県彦根市 デマンド型乗合タクシーで地域の交通課題を解消について

---

京都府宮津市 観光資源「天橋立」を活用した観光への取組について

---

京都府京都市 「バンヤンツリー・東山 京都」の館内視察

---

大阪府堺市 潜在休職女性を地域の中小企業とつなげる取組について

---

### 3. 参加議員

山上 文恵, 久保 東, 院去 裕

### 4. 随行者

議会事務局議事課 課長補佐 蔦村 和雄

## 岐阜県 岐阜市

### ■調査項目

子ども・若者総合支援センター「エールぎふ」の取組について

### ■調査対応者

岐阜市議会事務局 議事調査課主幹 尾崎 哲也氏

岐阜市子ども・若者総合支援センター所長 鷺見 佐知氏

岐阜市子ども・若者総合支援センター副所長 若井 俊洋氏

### ■調査期日

令和7年6月30日(月) 14時00分～15時30分

### ■調査目的

呉市において、これまでの「高齢」「障害」「子ども」「生活困窮」など分野別に分かれていた福祉の相談支援体制は活かしながら、単独の支援機関では対応が困難で複雑、複合化した相談に対応していくために、令和4年度から「重層的支援体制整備事業」に取り組んでいる。



ここに掲げた4つの分野の中をとっても、複雑に他分野との絡みもあり、単一分野で解決する相談事例は少ないのではなかろうか。今回、視察した「エールぎふ」では、呉市が取り組む重層的支援体制の取組みを、さらにグレードアップし、支援を必要とする子ども・若者に特化した支援体制（不登校問題、8050問題、虐待、リストカット、オーバードーズ、SNSでの悩み事なども、高齢者福祉や生活困難と深く関係していると思われる）を構築している。

例えば、その家族や教師、地域の支援者なども含め、あらゆる悩みや不安に対応すべき専門家と関係機関が連携していく支援拠点として日々、支援を行っている。今回の視察目的では、こうした体制構築の経緯はもちろんのこと、これまでの成果や課題などを学ぶ中で、子どもを産みたい、育てたいと思う世代が、安心して満足できる子育て環境の一つの大きな柱として、呉市において相談業務が「子どもへの

療育センター」のような専門性と継続性を持ち、なおかつ、0歳から青年期までの支援拠点の実現につながればと考える。

## ■調査内容

驚くのは元小学校をリノベーションし、教室はもとより体育館もエアコン完備。エレベーターなどの設置を含め、そのハード面の充実ぶりである。0歳児から青年期までの支援という事でトイレの大きさや種類からもよく理解できた。また発達診断のできる各部屋の充実ぶりにも驚いた。大にして発達診断などを実施する施設で感じる、閉鎖的で病院的な無味乾燥な色合いではなく、フロアごとに色合いを変え、ぬくもりのある内装にゆったりとした気分になれた。

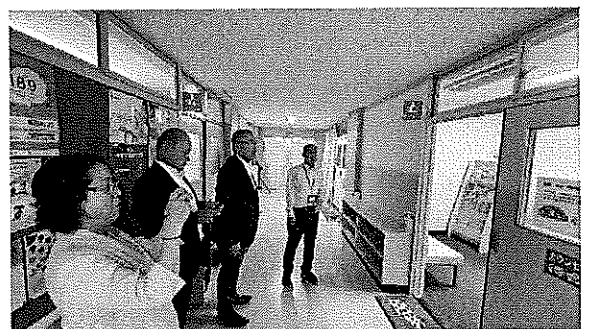


職員数 125 人。専門アドバイザー17 人。カウンセラーや医師なども非常勤であるが、職員のほとんどが教職・保育・福祉などの有資格者であり、警察関係者や市教委職員も入っている。黒板にはびっしりと職員の相談業務時間が記入されており、相談業務を円滑に行うマネジメントがなされていると感じた。子どもが中心の施設でありながら、保護者や関係者への支援も行っているのも、0歳を入り口として出口である20歳までの支援・相談というのにも頷ける。

のべ相談件数 2 万 5338 件。そのうち家庭児童相談と言われる虐待の相談件数が 1 万 543 件となっている。相談件数はどんどん増えているのが現状との事。その数字こそが「エールぎふ」に相談すれば、一緒に考えてもらえるという市民からの信頼の証だろう。

## ■質疑応答

相談支援業務におけるひとりの職員が担当する数を聞いたところ、施設長からは40人から60人と回答された。私が障害者の相談支援従事者として研修会へ参加し、相談担当数を多くの従事者と話す中で、60人程度が限界で、90人で鬱になり、100人を超えると退職するという話が出ていた。県を代表して国の相談支援従事者研修の伝達講習会へ行った際、国の方からは「相談支援従事者は、何が何でも100人を担当して！」という話が合ったので、それは現場を無視したもので、100人は絶対に無理。相談支援従事者が皆、いなくなると意見を述べた経験がある。相談業務は、当初は問題解決へ尽力するが、相談件数が増えればこなすことに追われ、その相談解決が二の次になるという盲点、弱点を秘めている。そうした形骸化した相談業務にしないためにも、ひとりの相談員が対応できる適正件数を維持管理する必要があると感じる。「エールぎふ」の凄さは、その管理



ができていう点であり、その姿勢こそが、ひとり一人の相談者に寄り添うという事だろう。

ひとつの相談から見えてくる問題や課題を、ひとりの相談員が抱えるのではなくチームとして考えていくという理念のもと、特に虐待事例に関しては、直ぐに各担当部署の代表が集まり、対策会議ができるようにと、部屋が常時、準備されていた。こうしたいつでもすぐに協議をし、連携を図り問題解決していく体制といった合理的な実践と、学校への悪口などに近い話も言い合う関係性の構築を図っているというアナログ的な実践という、言わば硬軟織り交ぜての実践・取組みは、人を思い、やさしく包み込む、まさしくインクルージョンとしての場の凄さを感じた。

いずれにせよ、ここに来れば分かってくれる人がいるという安心感が心を開き、問題解決の糸口を見つけ、孤独のループから抜け出すことにつながるというのは興味深い話でもあり、すべての相談支援事業の求めるべき姿であろう。

#### ■ 呉市での展開の可能性

中核市である呉市として、最大の課題は人口減対策と経済活性化ではなかろうか。呉市の人口減対策の根っこに、人を思い、やさしく包み込む、まさしくインクルージョンの思想があるのかが問われている。「エールぎふ」が大切にしている理念の中での具体的に実践が行われ、予算額で言えば、開所当初5億1千万円だったものが、12年後のR7年度は7億8千万円。約1.5倍になっている。これは職員数が当初102人だったものが125人に増加し、1.2倍に増員している。岐阜市が41万弱の人口であれば、その1/2人口、呉市においても職員50人体制。予算額4億弱程度での子ども・若者総合支援センターの実現も可能と感じた。人への投資を怠れば呉市の未来はない。人を大切にしたいがゆえに、インフラや経済活性へのテコ入れは積極的に行っているが、学校に通えない不登校児童生徒は500人を超えている、この現実から、呉市は今以上に人を育てる事へ尽力しなければならない。「エールぎふ」の取組みは、そのひとつの方向性でもあると感じる。

#### 滋賀県 彦根市

##### ■ 調査項目

デマンド型乗合タクシーで地域の交通課題を解消について

##### ■ 調査対応者

彦根市 都市政策部 交通政策課 内田 亮氏

彦根市議会事務局 議会課 議事調査係 主任 伏木 みのり氏

##### ■ 調査期日

令和7年7月1日（火）10時00分～11時30分

## ■調査目的

呉市では、人口減少による高齢化や過疎化は進んでおり、利用者の減少や交通事業者の収支悪化、運転手不足などの課題もあり、地域公共交通の運営は、厳しさを増している状況にある。それに伴い呉市の財政に与える影響は大きくなっている。今後、日常生活においては、呉市の実情にあった移動手段の確保や持続できる公共交通網の構築が求められている。



呉市においては、呉駅周辺地域総合開発が進められており、地域の実情に合った公共交通サービスの展開や、将来を見据えた新たな移動手段の研究などの取組事例を学び、参考とすることで、公共交通の課題解決の一助とするため、調査を行った。

## ■調査内容

彦根市では、湖東圏域（彦根市・愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町）の広域で公共交通網を形成し、「湖東圏域公共交通活性化協議会」で運営している。バスが運行していないところは、「愛のりタクシー」というデマンド型乗合タクシーを運行している。

湖東圏域の交通の概況は、JRの駅が4駅、近江鉄道の駅が11駅、バス路線が9路線、予約型乗合タクシーが15路線ある。基幹交通であるJRの駅はすべて彦根市内にあり、彦根市への移動において重要である。バス路線および予約型乗合タクシーは、市町を跨いで運行していることから、日常生活圏が隣接市町相互間で跨っている。そのため、各市町の個々の取組にとどまらず、湖東圏域で連携して公共交通の活性化に取り組んでいる。

湖東圏域公共交通活性化協議会は、平成20年頃各市町村が路線バス利用者の減少や財政環境を受け、各市町が路線の見直しを実施、結果として利便性が低下し、更にバス利用者が減少するという悪循環に陥り、公共交通空白地域が拡大、各市町の枠組みでは限界があり、湖東圏域で連携して取り組んできた。平成20年3月彦根市公共交通活性化協議会を設立、平成21年10月湖東圏域定住自立圏形成協定を結び平成22年3月湖東圏域公共交通活性化協議会の設立に至る。路線バス改善の取り組み、予約型乗合タクシー（愛のりタクシー）の運行・充実、公共交通にかかる情報提供、モビリティ・マネジメントの推進をしている。

公共交通利用促進の取組について、令和5年度に実施したアンケートでは、約8割弱の市民は自家用車を使用、この傾向は前回調査した平成27年度から変わっていない。湖東圏域において、従来どおりのバス路線をバス乗務員数で運行することは極めて困難で、著しく利用者の少ないバス路線・区間が存在する実情があり、路線の整理・著しく利用の少ない路線・区間の廃止を実施した。平成31年4月路線バス（圏域全域）を再編、廃止区間は「愛のりタクシー」へ移管、令和6年4月彦根市内の路線バス再編、廃止区間は「愛のりタクシー」へ移管した。

「路線バス」と「愛のりタクシー」の役割について、路線バスは、主に市町の中心部で運行、9路線、観光路線などあり、通勤・通学時間帯など、一時的に集中する需要に応じている。愛のりタクシーは、主にバス路線のない地域で運行、現在は15路線、バス路線の廃止・一部廃止となった区間の代替としても導入され、予約により需要のある便のみ運行することが可能となる。路線バス・愛のりタクシーを両立させることで、公共交通空白地域を減らし、誰もが公共交通を利用できる環境を整えている。

「愛のりタクシー」は、主に高齢者や自動車を利用されない人の日常生活に必要な移動（通院・買い物等）の支援を目的として運行している。路線、ダイヤをあらかじめ設定して運行、予約のあった便のみ運行することで人口密度の低い地域で効率的に運行が行われている。使用する車両は、通常のタクシー車両、目的地となる停留所を、日常生活に必要な最低限の活動を行える拠点施設（スーパー・病院等）に限定し、地域住民の意見を参考にしながら、効率的かつ利便性が高まるよう、運行ダイヤを設定している。予約受付時間は、利用日の1週間前から1時間前までで、総合病院からの利用は30分前までの予約が可能である。複数人予約割引もある。行政の費用負担は、メーター運賃から利用者負担分を引いた残りで、国からの補助はあり、令和6年度では約1億2千万円が行政負担となっている。

湖東圏域における公共交通の課題として、路線バス・愛のりタクシーともに、コロナ禍において一度落ち込んだ利用者数は回復傾向にあるが、併せて行政負担も増加しており、持続可能な運行のためには、更なる効率化と利便性向上を図る必要がある。高齢化が進み、運転免許自主返納後の移動手段をいかに支え、啓発していくのか。「停留所まで行くことが難しい」といった声に対し、公共交通担当以外の分野との連携を図り解決策を検討するか。新たなモビリティや、公共交通に関連する新技術について、情報収集と活用策の検討をどのように進めていくのか。公共交通活性化への課題は複数ある。

## ■ 質疑応答

Q 事業の周知方法はどのようにしていますか。

## 愛のりタクシー 予約のしかた

①時刻表を見て、どの便に乗るか調べましょう。



1. 路線名

2. どこからどこまで?

3. 何時何分発?

※帰りの予約も、いっしょにできます。

例えば...

1. 路線名 日笠線

2. どこからどこまで?  
子どもセンター から 豊郷駅 まで

3. 何時何分発? 14時28分 発

②電話で予約をしましょう。

近江タクシー(株)彦根営業所  
☎ (0749)22-1111

最初に 愛のり  
お願いします  
と一言お願いします。  
次に、乗る便と、あなたのお名前、  
いっしょに乗る人数をお話ください。

☆予約は、発車の1時間前までをお願いします。  
☆朝9時までに発車する便を利用される  
ときは、前日の夜9時までに予約をしてく  
ださい。

- A 各市町のHP、湖東圏域公共交通活性化協議会として年2回のニュースレターを発出し周知している。また、愛のりタクシーの出前講座を実施し啓発活動を行っている。
- Q 予約方法について教えてください。
- A WEBもありますが、電話予約が中心になっています。使い勝手について年々利用者が増えていることから、一定の評価は得ていると考えます。
- Q 運行事業者の総合窓口は設置されていますか。
- A 運行は、近江タクシー1社のため、同社で対応しています。精算は協議会が行います。有識者などもおり、協議会を通して事業を行います。1市4町の負担金と国庫補助で運営しています。
- Q 事業者からの提案はありますか。
- A 運行過程での危険箇所やシステムなど経費削減の提案があります。
- Q 17年前に彦根市公共交通活性化協議会が始めたきっかけは何ですか。
- A 人が公共交通機関に乗らない、悪循環となることの危機意識、関係市町村から同じような声があり、危機意識が共有できたことが大きい。
- Q 呉市も交通計画の見直しも行っていますが、彦根市と比べ17年遅れているとも言え、公共交通の将来を見越して取り組んできたのですか。
- A 彦根市は、自動車がメインで公共交通機関を使いづらい、JRの駅も彦根市にしかなく、高齢者の移動の代替手段が切実になってきたため。
- Q バスは民間が運営していますか。愛のりタクシーは他の事業者を圧迫しないか。
- A メーターは同じなので、1社で運行しているので問題はない。予約が入れば、ステッカーをつけて運行するだけなので問題はありません。

#### ■呉市での展開の可能性

呉市においては、過疎化・高齢化による利用者の減少に伴い、路線の縮小が進んでおり、交通手段が不足する地域における公共交通の確保は、喫緊の課題であるため、愛のりタクシーの取組は参考になる。地元にあるタクシー事業者とも連携して進めることができれば、導入可能性はあると考える。

令和7年4月呉市警固屋地区の循環型乗り合いタクシー「おでかけバス」については、運行休止になった。利用者が減少するなか、燃料費の高騰、運転手不足なども重なり採算が悪化したため、地元の運行協議会が休止を決定した。高齢者が多く、急傾斜の多い地区の貴重な移動手段でしたが、赤字を補填することが出来なかったためである。

呉市では、広島県による公共ライドシェアの試験運行が令和7年7月から始まったばかりで、住民のマイカーを使った「交通空白地有償運送」で令和8年1月まで試験運行が行われる。

愛のりタクシーも交通空白地に対する地域の実情にあった公共交通として有益な取組と考える。

## 京都府 宮津市

### ■調査項目

観光資源（天橋立）を活用した観光への取組について



### ■調査対応者

宮津市議会議員 松浦 登美義氏

宮津市議会事務局 井上 晴登氏

宮津市議会事務局議事調査課長 横谷 宏明氏

宮津市産業経済部商工振興課観光戦略担当課長 阿部 哲也氏（JTBから出向）

### ■調査期日

令和7年7月2日（水）13時00分～14時30分

### ■調査目的

日本三景「天橋立」を有する宮津市ではインバウンドを含む旅行者が増加傾向にある。「音戸の瀬戸」の再整備を控える呉市において参考となる事例等を調査し執行部への提案や地元での取組の参考にする。

### ■調査内容

宮津市は人口1万6758人。入込観光客数は令和元年320万人、令和3年169万人、令和6年300万人。「海の京都」としてブランド化を進めている。

「日本三景」という特別な景勝地としてのポテンシャルは高く、様々なメディアにも露出が多く、その情報の拡散は海外にまで及ぶ。外国人観光客の宿泊者より居住国のランキングは台湾・中国・香港のアジア圏が多く、次いでアメリカ・フランス・オーストラリアの欧米豪となっている。

観光消費額については、京都市が3万561円に対し、宮津市は4,249円と低く、日帰り客77%と通過型観光の傾向が高い。

第7次宮津市総合計画では「地域経済力が高まるまちづくり」を進めることとし、豊かな地域資源を活かした1次・2次・3次のあらゆる産業が連携し地域の活力の創出と新たな産業、雇用の創出、生産性の向上を目指している。

令和4年3月に策定した宮津市観光戦略ではキャッチコピーに「京都が憧れた海がある」と題し、主要観光地の京都を活用しながら独自の魅力を伝えている。

戦略の方向性として、「海の京都」エリア全体で集客し「宮津」への立ち寄り客数の底上げ。観光消費単価、訪問客の満足度向上。目的地の複数化で滞在時間を延ばし天橋立プラスアルファの地域資源の育成。



食の質向上と高付加価値化。温泉をブランド化。世界から選ばれるSDGsな観光地としている。

令和4年から観光庁の「地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化」の補助事業を活用し。民間の宿泊施設の高付加価値化を目的とした施設改修に18施設、土産物、飲食店などの観光施設改修の11施設、観光地形成のための廃屋撤去に1施設の採択を受け、官民一体となって高付加価値化を行っている。

観光DXについては、宿泊施設から提供を受ける匿名化したデータ（各施設のPMS宿泊予約管理システム）より、宿泊期間、発地、性別、宿泊単価、年齢層を分析。また飲食店等にはグーグルビジネスの登録を呼びかけ、グーグル上での検索数や口コミデータの分析を行っている。

食の高付加価値化については、地元食材を活用した一流シェフによる新商品の開発や、漁業体験と食をあわせたファムトリップを開催している。

インバウンドへの取組については、周辺市町と広域連携を組む「海の京都DMO」により海外プロモーションや国内旅行博への出展を行っている。

#### ■質疑応答

Q 観光消費額を上げるために宿泊への誘導を行っているが、宿泊施設の稼働率を伺う。

A 春・秋のシーズンになると宿泊予約ができない状況にあるが、他の時期はまだゆとりがある。

Q 飲食店が少なく、店舗も夜遅くまで営業していないようである。実情を伺いたい。

A 元々、観光客を相手に商売を始めておらず、地元住民が対象であった。そのため、観光客に対する意識が低く、またそれを望んでいない施設も多くある。夜のイベントなど行う際にも、営業時間の延長をお願いすることもあるが、対応していただけない店舗もある。意識を変える必要はあるが難しい。

Q 外資のホテルがエリア内にいくつかあるが、地元への恩恵はあるのか。

A 地元食材の活用はしているが詳細の把握はしていない。雇用創出にはつながっているものと思われる。

Q グーグルビジネスの推奨をされているが、登録後の更新はされているか。

A 店舗によっては初期登録のみのところがある。情報が劣化している可能性がある。

Q ホテルの宿泊予約管理システムより観光客の属性を分析しているが、エリア全体の消費額や行動履歴を把握できていないように見える。観光庁等が推奨するCRM事業等は実施しないのか。

A 事業を実施するためにはデータ分析を行えるデジタル人材が必要で今後の課題。

#### ■呉市での展開の可能性

令和5年における呉市の入込観光客数は309万人と宮津市に類似する。天橋立と同じくキラコンテンツとなる大和ミュージアムを有するが、周遊には繋がっておらず、通過型観光であるため、宿泊や飲食に結びついていない。宮津市でも課題となっていたが、観光は行政がするものではなく、住民や事業者が行うことが大切であり、地域全体の観光を振興していくためには、観光に関わる方すべての意識を変えていく必要があると感じた。

「音戸の瀬戸」の再整備が進むが、大和ミュージアム以外のキラコンテンツとなり得るポテンシャルが持っている。これらの観光地を繋ぎ合わせ周遊させる切っ掛けをつくることは、行政の役割と感じた。

## 京都府 京都市

### ■調査項目

「バンヤンツリー・東山 京都」の館内視察

### ■調査対応者

banyan group エリア総支配人 山田 智章氏

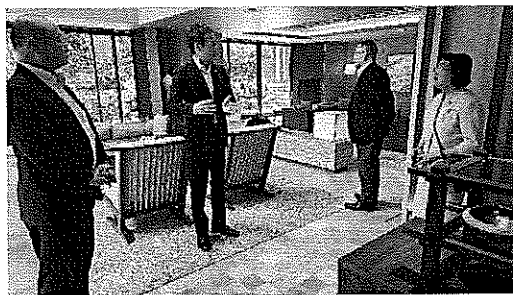
バンヤンツリー・東山 京都副支配人 塩治 裕之氏

### ■調査期日

令和7年7月3日（木）8時30分～9時30分

### ■調査目的

「音戸の瀬戸」公園に建設予定のバンヤンツリーホテルについて、類似施設の見学及び運営方針の確認



### ■調査内容

バンヤンツリー・東山 京都は清水寺の隣に位置し、京都市街を見渡す東山の高台に佇む全52室のホテル。山の竹林に囲まれ豊かな自然を有する立地である。能舞台と天然温泉を備え、祇園の観光名所まで徒歩圏内と利便性が高く、喧騒から離れた静寂の空間となっている。

室内のしつらえも上品で、室内に個別の檜風呂に温泉を引くなど、プライベートな空間が用意されている。

塩治副支配人より客室、ダイニング、スパ、ジムの案内を受けた。



## ■質疑応答

Q 地域との関わりの考え方。

A 地域の歴史や文化を大切にし、地域との交流も行いたいと考える。

Q 具体的な地域交流とは

A 地域の農園での収穫体験やその食材を使った食事の提供など想定できる。また、芸能文化にも興味がある。

Q 地域の特産物は活用していくか。

A 良いものは積極的に活用している。また、ラウンジでは地域のお酒を用意しているので連携できる。

Q このホテルにいられている客層は

A インバウンドが多い。館内も京都らしさを演出し、日本らしい滞在時間を提供できている。また、スパのみ利用する方もいらっしゃるため、宿泊者のみに限定した賑わいではない。



## ■呉市での展開の可能性

呉市にはないタイプのホテルで、市内の既存ホテルの客層を取り合うことがなく、新たな客層の確保にはつながると感じた。地域間交流を大切にしているとの話もあり、ホテル誘致により地域の特産品の消費などに繋がるのではないかと思います。

バイヤンツリーを目当てに訪れる高額旅行者が増えることが期待できるが、外貨獲得による消費額の地域内循環については呉市とホテル側で協議をしておく必要があると感じた。

また、地域の生産者とホテルとのマッチングについてもするべきと考える。

## 大阪府 堺市

### ■調査項目

潜在休職女性を地域の中小企業とつなげる取組について

### ■調査対応者

産業振興局産業戦略部雇用推進課課長 中辻 奈々氏  
鎌田 伸子氏  
圓城寺 朗也氏

### ■調査期日

令和7年7月3日(木) 13時30分～15時00分

## ■調査目的

潜在休職女性を地域の中小企業とつなげる取り組みについて学ぶ

## ■調査内容

堺市における女性雇用促進への取り組み状況

「さかい女性の就職応援プロジェクト」の取り組みと効果

## ■質疑応答

Q 女性の求職喚起および女性就労モデル事業として、「いつかは働きたいママの就活部 マミクリさかい」について伺う。

A 就労意欲があるが、求職活動に至っていない、子育て中の女性潜在求職者の掘り起こしを目的として、地域2か所で、登録した女性たちが集まり、サークル活動やイベントを実施されている。その活動の一つとして、企業見学をしたり、企業の人事部の方とのおしゃべり交流会と題して、企業で働く場合に、少しでも働きやすい環境の整備への希望や要望などの意見交換をするなど、サークル活動にとどまらないイベントの仕掛けを委託会社が企画していく事業をされている。令和6年度の実績では、22サークルがあり、親子で参加できるように保育もしていただける仕組みとなっており、参加人数が延べ285名、登録人数もほぼ同じくらいの人数の方々が参加活動している。子育て中のママにとって、子どもと一緒に参加して、活動できる体制があることは、うれしいし、子育ての少し手が離せるときに、企業で働ける自信も付けられる場であり、働きながら子育てする知恵ももらえる場であり、職場復帰への不安や離職を考えているママさんたちへは仕事と家庭の両立不安に対するアドバイスもある場となっている。

堺市で働くための総合支援施設「さかい」OBステーション」では、求職者の利便性の向上、中小企業者への人材確保・定着などの支援をワンストップで提供することを目的に、令和5年5月に産業支援機関が集積する中百舌鳥エリ



アに移転して、39歳以下の若年者と全年齢の女性を支援対象としていたが、デジタル人材ステーションの対象を、ITの基礎知識を証明する国家資格「ITパスポート」を有する求職者とし、同資格があれば年齢に関わらず支援するように拡充をされている。ここでの令和6年度の実績は、延べ利用者数は10,083人、相談件数は3,591件である。また、利用会員実数は、4,275人でうち女性は2,889人と7割を占めている。そして、就職決定者数は、1,726人で、うち女性は970人と半数が決まっている。女性のネックとなっているのは、やはり年齢ではないかと思われる。

企業に対しての堺市の女性の雇用促進等職場環境支援事業としての補助制度では、補助率50%で最大補助額は50万円として、企業内労働者環境整備として女性用トイレや更衣室の整備に係る費用を補助している。

「キャリアナビさかい」を令和6年10月から始められて、企業が抱えている課題の支援策を行われている。キャリアブランクがあり意欲的に就職活動ができていない女性や、希望せず非正規雇用で働いている方に対する就職・転職支援、市内企業への人材確保支援に一体的に取り組んでいらっしゃる。求職者に対して、キャリアコンサルタントによる就職相談を通じて職業理解・キャリアデザイン支援を行い、就職・転職につなげている。また、企業への意識啓発に取り組み、子育て中の女性のニーズに対応した短時間就労等の求人開拓を行い、市内企業と求職者のマッチングをめざされている。

Q 課題と今後の展望について

A 女性の就業率が、2019年に49.8%であったものが、令和6年度では54.5%に上昇している。堺市の基本計画では、2025年度には目標値を55%としており、達成しつつある。そこで新たな取り組みを始めることとしている。

① デジタル人材育成支援新規事業として、令和7年度から求職者のデジタルスキル向上に向け、「ITパスポート試験対策講座」を開講する。受講にあたっては、好きな時間に学習できるようオンライン（eラーニング）で開講し、多くの方が学ぶことができる環境を提供。受講者に対して、両機関による就職相談・企業との人材マッチング等の支援を行い、一体的に就職支援を実施。

② 女性活躍推進の取り組み強化として、女性の採用や定着を進めたい企業に社会保険労務士、中小企業診断士等の専門家を派遣し、柔軟な働き方が可能な勤務制度の導入支援等、企業がそれぞれに必要な職場環境の形成や職場風土の醸成を支援。

③ 妊娠初期の家族等を主な対象に、子育てに対する不安の解消や「取るだけ育休」「取らされ育休」を防ぐなど共育てを応援することを目的に育休取得・家事育児参画促進セミナーを実施。

#### ■ 呉市での展開の可能性

女性の社会進出や就労に関しては、同じような悩みを抱えていることがわか

りました。しかし、堺市では、企業があり、女性就労の支援策を考えられておられることは、素晴らしいと思う。しかしながら、まだまだ根深い女性の働き方には、非正規労働やパート対応の職場しか与えられない傾向があることが伺えられる。女性の就労支援は、企業体質の変革と意識の変革が必要であることが考えられる。そのための「マミークリスタル」という企画会社の存在は、呉市でも取り入れてもらいたいと思った。

そして、社会の意識改革を変えていけるように、行政ができることを進めていく必要を感じた。